

肝臓がん予防にアスピリンが有効か

高用量（325mg/日）のアスピリンを週に2回以上服用すると、肝臓がん（肝細胞がん）の発症リスクが低下することが、米マサチューセッツ総合病院の Tracey Simon 氏らによる研究で示され、詳細が「JAMA Oncology」誌に掲載されました。



アスピリン服用による肝臓がんリスクの低減効果は、服用量が多いほど、また服用期間が長いほど高いことがわかりました。特に高用量のアスピリンを週に 1.5 錠以上、5 年以上服用すると肝臓がんリスクは著明に低下していました（同 0.41、0.21~0.77）。



ただし、アスピリンの常用は出血リスクを伴いますので、注意が必要です。